

中部地整

CIMを次工程でも活用

建設ICT普及導入研究会の取組みで

国土交通省中部地方整備局は2014年度、コンストラクションインフォメーションモデリング（CIM）について、これまでの試行で整備したデータを、設計・施工・維持管理など、それぞれ事業の次の段階で活用することに組み込む。6日に開いた建設ICT普及導入研究会の総会で、2014年度の方針の一つ

として発表した。このほか、受発注者間でネットワークを介して帳票や書類をやり取りするアプリケーション（ASP）について、ワークフロー機能の有効利用などを推進するとして。

同研究会は、中部地整が事務局となり、受発注者や技術の開発者などが一体となって、建設ICTの普及と現場支援、技術研究などを行う場。情報化施工では、中部地整は全国に先駆けて、指定した工事で複数のICT技術を組み合わせる「中部標準化」を進めてきた。

CIMは、土木構造物の3次元データと、地質や部材、コストなどの関連する属性情報をリンクさせて活用する技術。調査・設計・工事・維持管理など事業のサイクルを効率化する技術として期待されている。

中部地整が13年度にCIMを試行したのは、▽475号東海環状（北勢・大安）北勢北高架橋詳細設計▽23号蒲郡B.P.豊沢・広石・為当地区道路詳細設計▽伊勢神地区地質調査▽佐久間道路蒲川地区第1トンネル新設工

事▽1号袋井沖之川高架橋床版工事の5件。また、12年度には名四国道事務所が発注した国道155号豊田南バイパス横山地区道路詳細設計で試行した。14年度からは、こうした試行で得られた情報を事業の次の段階に伝達し、活用できるか検証していく。

ASPは、ネットワークを介して事業者が提供するサービスを通じ、発注者と受注者が施工管理に必要な書類やデータをやり取りするサービス。研究会では、ワークフロー機能を有効活用、複数ベンダー間でのデータの連携などが今後の課題になるとした。

研究会では、CIMを試行している佐久間道路蒲川地区第1トンネルの管理用の初期データとして発注者に提供した。

ある大林組が取り組み状況を説明。トンネル新設工事でのCIMの導入についてあらためて意義を問い直し、▽設計照査▽施工計画・協議▽品質管理▽維持管理初期モデルの提供などに活用することにしたという。

中部地整では13年度から、原則としてASPを活用できる全ての工事で行っている。13年度の活用件数は約900件で、中部地整が発注する工事の約8割を占める。

しかし、利用実態を見ると、使用する機能の約60%はスケジュール管理。研究会では、ワークフロー機能を有効活用、複数ベンダー間でのデータの連携などが今後の課題になるとした。

同社では、トンネルの3Dデータに材料の品質や地盤、地形などさまざまなデータを重ね合わせ、トンネル管理用の統合モデルを作成した。完成時、引き渡し前に壁面のクラックやトンネルの形状などを収集し、維持管理用の初期データとして発注者に提供した。

【建設ICT】

- | | | |
|---------|--------|---------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経 | 11. 建通 | 12. 日刊工 |
| 13. 建設通 | 14. 信濃 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工 | | |